

観光需要と生活需要での バス交通のあり方

創政・改革クラブ
谷村 昭次



問

市街地で来年度に観光特化型バス3台を運行するが、既存バス路線とどのように主体的な立場で調整をするのか。一方で周辺部の宿泊者減少が下げ止まらない状況に対して観光特化対策、宿泊証明書制度活用による一部運賃支援への制度構築はできないのか。

答

「まちなみバス」は観光特化型バスの新規運行時には生活需要への対応運行へと見直し、観光需要へは観光特化型バスによる運行を予定している。また、周辺部での滞在型宿泊者数減少に対しては閑散期などでの誘客対策の必要がある。



市民の働き方をどう変革するか

創政・改革クラブ
岩垣 和彦



問

国は、働き方改革で労働関係法令を改正し、本年4月から中小企業にも適用した。改正内容は、年次有給休暇の付与義務、時間外労働上限規制、同一労働同一賃金などであるが、収益確保も厳しい中、労働力不足が深刻で労務倒産も心配する事態となっている。各事業者間でも明暗が分かれるなか、今後の市内従業員の働き方の展望や企業の将来像にどのように関わっていくのか。

答

地域経済懇談会において多様な働き方や生産性の向上もテーマにあげ事業者を含む構成メンバーの方々と議論を深める。



SDGsという新しい 政策理念の導入について

創政・改革クラブ
中田 清介



問

SDGsは国連が打ち出した「持続可能な開発目標」。理念として総合計画に位置付けてはどうか。また、今後の基本姿勢は賢く縮む社会の実現であり、規模の経済や成長路線一辺倒からの転換。今回の見直しの基本姿勢を伺いたい。

答

今回は分野別から分野横断的な観点に切り替え対応。SDGsの理念を目指したい。また、今回、まちづくりの方向性の明示化、長期的な視点の確立、地域毎のまちづくりの方向性の明示で実効性ある内容としていく。

11 住み続けられる
まちづくりを



救急医療の確保・医師の確保は！

清和クラブ
松林 彰



問

飛騨圏域において、心臓疾患の救急医療が確保されるかどうかということは、地域住民にとって最も心配する問題であり、これまで通り専門医が常勤してくれることを望んでいるが、今後はどう医師の確保ができるのか。

答

安定的な救急医療体制を維持するためには、質の高い専門の医師を確保する必要があり、県と共同で医師の確保に手を尽くしてきたところであるが、現状では以前の体制が確保される状況には至っていない。今後も引き続き、県や病院と連携する中で、医師の確保に最大限の努力を図っていく。

